



第128回 東方問題②

1 オスマン帝国の改革

- カピチュレーションを利用した西洋諸国の権益拡大、とりわけ1838年にイギリスと結んだ不平等な通商条約により、オスマン帝国には綿製品など安価な外国製品が流入して国内の産業は崩壊した。

- ◆ () (在位1839~1861年)
- 1839年、() を発して、() を開始した。
- オスマン帝国の西欧化をめざした、上からの近代化がはじまった。



アブデュルメジト1世

タンジマートを開始したスルタン。宗教に関係なく、オスマン帝国支配下の民族の平等を実現しようとした。なぜでしょう？



ギュルハネ勅令

宰相ムスタファ＝レシト＝パシャが、イスタンブルのギュルハネで勅令を読み上げた。現在ギュルハネ公園は、並木道の綺麗な公園として、市民に開放されている。



トプカプ宮殿

ギュルハネは、オスマン帝国の宮殿であるトプカプ宮殿の庭の一部。トプカプ宮殿には、現在も財宝が山のようにある。

2 クリミア戦争

- () 年、ロシアの() は、聖地管理権とオスマン帝国内のギリシア正教徒の保護を口実に、オスマン帝国に対して戦争をしかけた。
- ※この戦争を() という。



ロシア皇帝ニコライ1世

アレクサンドル1世の弟。即位直後にデカブリストの乱を鎮圧している。クリミア戦争中にうつ病になった。



セヴァストーポリ要塞

クリミア半島にあったロシア側の要塞である。クリミア戦争最大の激戦地となり、多くの犠牲者を出した。

- ロシアの南下政策を警戒し、イギリス・() ・() がオスマン帝国側で参戦した。
- オーストリアは参戦せず、() が陥落してロシアは敗北した。
- イギリス人の() は、敵味方を問わない献身的な介護から「クリミアの天使」と呼ばれ、野戦病院の改革に活躍した。
- デュナンにより、1863年に() が設立された。
- ロシア人の文豪() は、兵士としてクリミア戦争に参加した。



ナイティンゲール

「白衣の天使」と呼ばれることもあるが、当時の看護師は黒い制服が普通だった。ちなみに病院はイスタンブルにあった。



トルストイ

ロシアで文豪といえばこの人。『戦争と平和』、『安娜＝カレーニナ』、『イワンのぼか』、『セヴァストーポリ』など、代表作多数。



ノーベル

スウェーデン人のノーベルはダイナマイトを発明した。クリミア戦争では武器製造によりにより莫大な財産を築いた。ノーベル賞の賞金は、この人の遺産から出ている。

3 クリミア戦争の結果

- ・1856年、ロシアの敗北によりクリミア戦争は終結した。
→ナポレオン3世が中心となり、() が結ばれた。



ナポレオン3世
パリ条約をまとめた
ことで、ヨーロッパ
におけるフランスの
存在感が増した。
第124回も見よう。

<パリ条約の内容とクリミア戦争の影響>

- ・() と軍艦の航行禁止が決められた。
→ロシアの南下政策は大きく後退した。
- ・ロシアと参戦しなかった() との関係が悪化しはじめた。
→ロシアとオーストリアは、() をめぐって争うようになった。
- ・オスマン帝国から、モルダヴィアとワラキアが事実上独立した。
- ・オスマン帝国は改革勅令を出し、改革を進めることを内外に示した。
→しかし莫大な戦費により1875年には財政が破綻し、列強へ経済的に従属した。
- ・ヨーロッパの大国が協調して、自由主義やナショナリズムの運動を抑えるウィーン体制は、大国間の戦争が起こってしまったことにより完全に崩壊した。

4 ロシアの改革

- ・ロシア皇帝() は、クリミア戦争に敗北した理由はロシアの近代化の遅れであると考え、様々な自由主義的な改革を行っていった。

- ・1861年、アレクサンドル2世は、() を発布し、農奴を自由にした。
→労働者になる人も増えて、ロシアで資本主義が発展するきっかけとなった。
→ただし土地は有償であったため、農民の多くは() という農村共同体にしばられたままであり、ただちに自立できたわけではなかった。
- ・これらの改革に対し、1863年、() で独立運動が発生した。
→アレクサンドル2世の政策は、再び専制政治に戻ってしまった。



クリミア戦争中に、父のニコライ1世が急死したため、ロシア皇帝となった。5ヶ国語を話せる優秀な皇帝だったが、長男が急死した後はうつ病になった。

ロシア皇帝アレクサンドル2世



レーピン作「ヴォルガの舟曳きたち」(部分)
ツアーリによる専制政治のもとで、民衆たちは過酷な生活をいられていた。

ロシアの南下政策とバルカン半島情勢

